



OITA MEDICAL CENTER

大分

56号

平成28年春

大分市横田2丁目11番地45号
独立行政法人 国立病院機構 **大分医療センター**
編集発行 広報誌編集委員会
大分医療センターホームページアドレス
<http://nho-oita.jp/>

平成28年「熊本地震」について

今回の熊本県・大分県を震源とする平成28年4月より発生しました「熊本地震」において、お亡くなりになられた方々、そのご遺族の皆様に対し謹んでお悔やみ申し上げます。

また、被災され、今もなお不自由な生活を強いられている皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興を心よりお祈りいたします。

平成28年5月

大分医療センター院長 室 豊吉



くじゅう花公園（久住町）

基本理念

OITA MEDICAL CENTER

最新の医療技術・知識の修得に励み
病める人の立場に立ち
人の尊厳・権利を尊重し
「愛の心・手」で
最良の医療サービスを提供します

基本方針

- 365日24時間断らない診療を目指します
- 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

目次

| | | | |
|--|---|----------------|----|
| 平成28年度のご挨拶 | 2 | 平成27年職員表彰発表会 | 7 |
| 退任のご挨拶 | 3 | 院内感染対策研修会を開催して | 8 |
| 新任のご挨拶 | 4 | 別大マラソンを走って | 8 |
| 日本医療マネジメント学会 | | “診フロ” PV 撮影 | 9 |
| 第16回大分県支部学術集会を開催して | 5 | 被災者受け入れ訓練 | 9 |
| 医療安全研修会 ヒヤリハット小劇場 第6弾 | | 合同送別会 | 10 |
| 何でも言えるアサーティブなチームを目指し ISBAR・CUSを活用してみよう | 6 | 編集後記 | 10 |

平成28年度のご挨拶



院長
室 豊 吉

例年より少し遅れて3月28日に開花した桜が、新しい仲間として加わった50名近くを迎えて、平成28年度がスタートしました。新しい仲間は、転勤異動によるひとや新社会人としてスタートするひとなど様々ですが、職員一同心より歓迎いたします。早く当院のシステムや環境に慣れ、その実力を遺憾なく発揮してください。また当院を社会人のスタートに選んでいただいた方々へは感謝を申し上げますとともに、社会人としての自覚を持ち、その専門的な知識・技術の習得に励み、大きく飛躍することを期待しています。

例年通り、以下に今年度の病院目標について述べます。

1. 外来棟等建替改修整備工事の更なる確実な進捗

当院の現在最大の案件は、外来棟等建替改修整備の竣工です。平成26年11月に機構本部の同意後、基本設計を経て、平成28年4月4日現在、実施設計を策定しているところで、今後設計が順調であれば7月に実施設計同意へと進む予定です。そのためには以前からの経営改善計画達成が必須です。昨年度は改善実績の比較対象が平成25年度実績でしたが、今年度は対象がより厳しく改善を求められる平成26年度実績となります。機構本部への毎月の報告が必要で、昨年度以上の頑張りが必要です。

2. 1日平均入院患者250名と毎月新入院患者400人の確保

現在の建物整備（病棟やリハビリ棟など）や医療機器（一昨年のリニアックや昨年の心臓カテーテル検査機器など）の償還、機構の非公務員化による労働保険料や公経済負担、さらに消費税増なども加わり、費用が増加しています。外来棟等建替改修整備後はさらに償還が増加します。そのためには、今まで以上の健全なる経営基盤が必要です。昨年度は、心臓カテーテル検査機器の更新工事により2か月近く検査休止と整形外科部長の年度途中の退職による手術数減などがあり、平均入院患者239.2人と目標に遠く及ばず、厳しい収支状況となりました。目標1のため、改善計画を達成したうえでの実績が求められます。必ずやこの絶対必要条件の要求に応えましょう。

3. 救急車受け入れ年1000台の確保

昨年も述べましたが、平成21年10月大分県知事より認定されました地域医療支援病院の認定要件の一つに、当院の場合救急車受け入れ台数1000台以上があります。平成26年度に初めて1000台を超えました。平成27年度は前述しましたように、2か月近く心臓カテーテル検査を必要とする救急患者を受け入れられなかったにもかかわらず、過去最多となる1035台の救急車を受け入れました。当院は大分市2次救急固定輪番制施設（365日24時間）でもあり、積極的に救急車を受け入れる責務があります。救急車受け入れは入院につながるが多く、新入院患者確保に直結します。目標2のためにも、目安として1日3台の受け入れが必要となります。

4. 地域医療支援病院として、「愛の心・手」による安心・安全・最良な医療の提供

国立病院が独立行政法人化された平成16年4月に作成しました当院の基本理念の中にある「愛の心・手」は、基本理念のキーポイントです。基本理念は定期的な見直しが要求されますが、現在まで変更していません。それほど「愛の心・手」が重要と考えているからです。地域医療支援病院ですから、安心・安全・最良な医療を提供することによって、地域に貢献する責務があります。そのためには常に「愛の心・手」を持つことで、すべてのことに対応・対処してほしいと思います。

現在の病棟が竣工して5年半が過ぎました。玄関・外来から遠い病棟、利便性からも“患者さんにやさしくない病院”です。上記目標を達成することにより、1日も早い外来棟等建替改修整備工事の開始を期待します。本体+0.49%、薬価・材料△1.33%で全体改定率が△0.84%となった4月の診療報酬改定が当院にとって利点が多いのか、不利な点が多いのかなどは、結果が出ないとわかりません。これらを含め、今後とも多くの試練が待ち受けてはいるでしょうが、乗り越えていきましょう。乗り越えなければなりません。職員一丸となって、今まで以上の“働いて楽しい、働き甲斐のある病院”にしましょう。ご協力のほどよろしく申し上げます。

退任のご挨拶

5階病棟看護師

二宮尚子

定年を迎えるにあたりここまで働けたことに自分自身が今一番驚いています。

35年前大阪より帰省し、この病院に就職した時には、大在駅から海の方を見渡せば国立大分病院の建物が一番高く、周囲には田んぼやみかん畑が広がり自然の匂いがいっぱいありました。

また、すぐ近くには海もあり水着をきたまま海水浴に行ったこともあります。松林は変わりませんが、テニスコートもあり毎日テニスをしていたことが思い出されます。

病院の名称が変わる中で医療体制も変わり、自分自身の看護に対する思いも変化していったように思います。

就職した当初はまだすべての病棟が開棟しておら

ず、外科病棟に婦人科や泌尿器科、循環器科、皮膚科、小児科などの科が混在していました。また、病棟から手術室へ入り麻酔のかかった患者さんの観察もしており、怖さもありましたが必死で働いていました。

振り返れば看護師はなんでも屋のように働いていたような気がします。看護師の数が少なかった頃には夜勤回数も11回となることもありましたが、現在のように患者中心の看護までには至っていなかったように思えます。

50代になると電子カルテの導入や業績評価、委員会、ジェネラリスト研修と四苦八苦しながら勤務してきました。昔のような体力もなくなりましたが、皆様に支えられながら無事に定年を迎えることができました。ほんとうにありがとうございました。

退任のご挨拶

栄養管理室
調理師長

板屋裕

約39年間、長かったようで短くも感じた年月でした。おかげさまで病院の多くの方々や家族の皆に支えてもらいながら無事定年を迎えることができました。

入職した頃の病院は木造の古い学校のような所でしたが、今ではその場所は^{にほうそう}大分県立図書館が建っています。私が入って2年ほどで二豊荘療養所と統合して6階建ての病院に、それから30年余りが過ぎ、現在の新しい5階建ての新病院となり今日に至っています。統合した頃の給食部門は病棟配膳で、それからすぐに中央配膳に変わり、なかなか慣れない期間がありました。以前は大分佐賀関名産のアジやサバの刺身、フカの湯引き、またローストビーフ、だし巻き卵、オムレツ、プリン等を作っていましたが、0-157が流行した頃に衛生上の問題もあり大半が姿を消しました。しかしながら、正月には手作りのおせち、2月の節句では恵方巻（全て手作りのため、調理師総出で作ります。）、3月には花見弁当、5月の節句には巻き寿司等々、患

者様に喜んでいただけるよう、行事食も内容を変えながら提供しています。

仕事以外でも、病院の釣りクラブ、野球部、テニスクラブに所属していました。野球部ではおはよう野球やナイター、大切との試合も合わせると年間何十試合をやって、院内のスタッフや他施設との交流も活発だった頃が懐かしく思い出されます。因みにポジションはキャッチャーでした。（なぜそのポジションだったかはご想像にお任せします。。。）

釣りクラブはできてから30年以上になりますが、今でも毎年忘年会は続けています。また、次の年に退職者がいれば、みんなで1泊2日の旅行をして昔話に花を咲かせています。（今年は私1人です。）39年間、良い職場で良い仲間と過ごせたことを嬉しく思っています。これからも大分医療センターの益々のご発展を期待しています。本当にありがとうございました。

新任のご挨拶



副看護部長
竹之内須賀子

この度、4月1日付けで小倉医療センターより異動して参りました副看護部長の竹之内です。出身は、名前の由来でもある横須賀で、その後は転々と鹿児島・岡山・和歌山・静岡・福岡・大阪・奈良等数多くの異動を経験してきました。その中で大分は、看護学生時代に中津市に2年間と看護師長時代に西別府病院で3年間お世話になり、今回は4年ぶりとなります。私の中での大分でのイメージは「暖かく愛情深い」です。温泉は言うまでもありませんが、やはり「人の愛情と暖かさ」に惹かれます。私は看護師になってからの22年間は国立病院機構の関西グループにいました。その後に西別府に異動したのですが、病院スタッフからは本当に丁寧で優しく受け入れていただきました。また、病棟は神経難病の病棟でしたがこの時のQC活動では、間接看護の時間削減取り組みでしたがスタッフが決めたチーム名は「あなた（患者）のそばに行き隊」！こりゃまたなんて、暖かく愛情深いスタッフなんだろうと感心したことを記憶しています。そんなスタッフと信頼も深まり楽しい看護師長時代を過ごすことができたのが大分でした。そして、当院の病院理念

に「愛の心・手」を見たときに「びっくりポンヤ！」とホッと暖かい気持ちになれ、また以前勤務したことのある職員もおり心強く感じています。

今年度も診療報酬改定に伴う調整や、地域完結型医療転換に向けた取り組み、そして外来管理棟の建て替え整備など課題は多くあります。課題達成に向けての取り組みも大分医療センターの一員として最善を尽くしていきたいと考えていますが、特に私はそれを成す人への支援を大事にしていきたいと考えています。今年で副看護部長5年目となりますが、その役割の大半は人材育成であり「教育（人材育成）は愛情」がモットーです。できれば成人学習者として主体的に思考できる看護師となれる支援が強化できればと考えています。先ずはその実践のためにはコミュニケーションが大切と考えます。気軽に声をかけていただけたらうれしいです。まだ不慣れな点などありますが、これからも看護師の皆さんが患者さんから「信頼され安心のできる看護」支援ができる職場環境となるように頑張りますので、宜しくお願いいたします。

新任のご挨拶



管理課長
三宅修二

鹿児島医療センター経営企画室長から配置換で管理課長を拝命いたしました三宅と申します。生まれは佐賀県ですが生活拠点は現在熊本県にあって単身赴任は5年目となりました。4月14日からの熊本地震で多くの方が被災され、私の家も大きな被害はなかったものの、家族の元へ週末は熊本県と大分県を慌ただしく往復する日が続いています。病院での勤務は31年目に突入しましたが、管理課（庶務課）での仕事は実質3年余りと経験が短いのでご迷惑をお掛けする場面も多々あるかとは思いますが、よろしく申し上げます。

その反面、企画課での業務が長かった事もあり、当院で現在進行中の外来棟の建替え工事に非常に興味があって、今年度からはいよいよ本格的に工事が始まる段階ということで、福岡東医療センターや宮崎東病院、鹿児島医療センター等で経験してきたことを生かし、いろいろな面で関わっていかれたらと考えています。（皮

肉にも各施設とも準備段階での異動となったため、実際の建物にはお目に掛かれていませんが…。）

また、工事期間中は患者様をはじめ、多職種の方々への影響が考えられますので、管理課としても病院業務に支障を来さないよう他部門との連携を密にするなど、調整役等としての役割も十分に果たしていきたいと思っています。

管理課のイメージは、昔は「他に属さない仕事は管理課」と言われ、いろいろの仕事が舞い込んでとにかく忙しい部署と感じています。特にメインは職員の皆さんの業務をフォローしていく立場だと考えています。当院の基本理念にある「愛の心・手」の精神で、職員の皆さんが働きやすい職場となるよう、それが最終的には最良の医療サービスに繋がると信じて、微力ではありますが努力していきたいと思っていますので今後ともよろしくお願いいたします。

日本医療マネジメント学会 第16回大分県支部学術集会を開催して

副院長

穴井 秀明

平成28年2月27日（土）に第16回大分県支部学術集会を明日香美容専門学校で開催しました。明日香美容専門学校は100年に一度の大再開発が完了した大分駅から徒歩数分のところに位置し、同校の10階大ホールで口演発表、11階ホールでポスター発表を行いました。

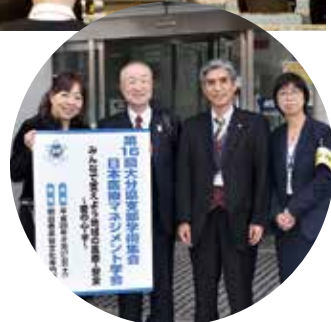
今回は「皆で支えよう地域の医療・安全～愛の心・手～」のメインテーマで開催させていただきました。これには3つの意味が含まれています。一つは「地域医療」、二つ目は「医療安全」、そして三つ目は当院の理念であります「愛の心・手」です。

「地域医療」に関してはシンポジウム「地域包括ケア時代に向けて～私達が今から取り組むべきアクションとは～」というテーマで4名のシンポジストに発表させていただきました。座長は当院の岡江晃児 医療社会事業専門職と次回会長の臼杵市医師会立コスモス病院院長の下田勝広先生のお二人にいただき、息の合った司会で充実した活発な討論ができました。このシンポジウムに興味をもたれた東京都市大学都市生活学部 准教授 西山敏樹先生がわざわざ東京から来られ、午前中の一般演題から午後最後のプログラムのシンポジウムまで聴講されフロアから討論に参加いただきました。

「医療安全」に関しては、ランチョンセミナーで東京慈恵会医科大学教授の海渡 健先生に「より良いチームワークで医療の安全性と成果を高めましょう チームステップス (TeamSTEPS) を活用したノンテクニカルスキル改善策」と題して講演していただきました。また特別講演で佐賀県赤十字血液センター所長の入田和男先生は「九大病院医療事故調査の教訓」という題で講演をしていただきました。ご造詣の深いお二人の講演は一方的では無く、時にはユーモアもあり、考えさせられとても有意義な講演でした。

今回は出来るだけたくさんの方に発表していただきたいと思いました。そこで一般演題は21題の口演発表と10題のポスター発表、2題のクリティカルパス展示、合計33題の演題となりました。そして、それぞれのセッションごとにベスト口演賞、ベストポスター賞を各座長の方に選んでいただきました。参加者は187名でした。関係者の皆様のおかげで、実り多い学術集会であったと自負しています。

本学術集会開催にあたり、準備、運営にご支援、ご協力をいただきました職員の皆様がたに心から感謝とお礼を申し上げます。特に準備委員会の堀川利美 管理課長（当時）、吉田幸子 副看護部長（当時）、安藤万寿美 医療安全管理係長、岡江晃児 医療社会事業専門職には大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。



何でも言えるアサーティブなチームを目指し ISBAR・CUSを活用してみよう

医療安全管理係長
安藤 万寿美

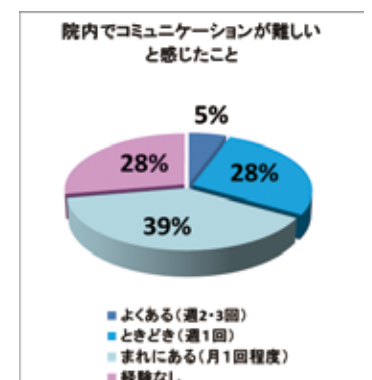
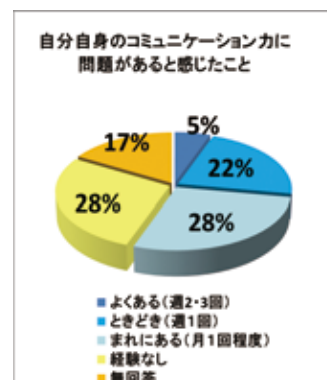
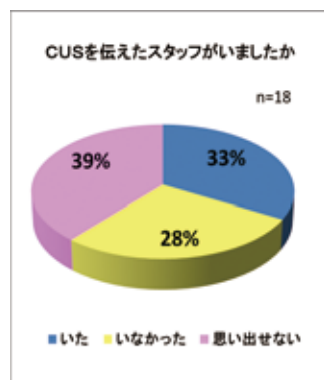
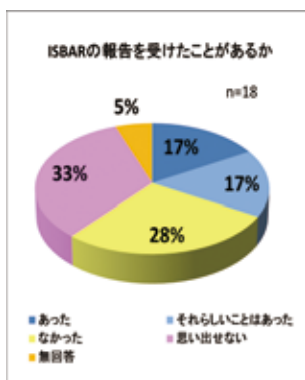
今回のヒヤリハット小劇場では、「検査値のパニック値の報告遅れ事例」と「内視鏡検査後の患者の状態悪化事例」の2事例を演じました。どちらの事例も患者への重大な影響を及ぼしかねない事例で、ISBARとCUSをどのように活用したらよいか考えました。ルールの再確認や実際に対応した職員からの意見を頂くこともでき、今後の対応策を参加者で検討することができました。



パニック値報告フロー



医師からのアンケートより、この2年間の取り組みの評価を行いました。ISBARとCUSは、3割の医師が活用できつつあると回答しています。また、医師自身のコミュニケーションに問題を感じたり、難しいと感じている医師が5割以上いることもわかり、今後も、事例を通してどう対応したら良かったのか？どんな声掛けを行ったら良かったのか？など、有効なコミュニケーションを考える事で、相手のことを思いやりながら、なんでも言えるアサーティブなチームを職員全員で目指していきたいです。



平成27年 職員表彰発表会

庶務班長
岡部達枝

職員表彰には2種類の表彰があります。1つは平成27年1月から12月まで、院内・院外で自主的に研修に参加した方たちの中からより多くの研修を受講した方を表彰するものと、1年間、各職場、チームで活動して病院経営面での貢献、医療安全や患者サービスへの貢献などを発表して頂き、審査員（院長・副院長・事務部長・看護部長）が審査して表彰するという2つの部門があります。

平成28年3月15日（火）活動内容を発表する発表会が開催されました。今年は、応募期間が短く7部門のノミネートといつもより少なめでしたが、1年間取り組んで来られた内容を発表して頂きました。発表5

分・質疑2分として設定していましたが、ほとんどの部門が発表時間をオーバーしてしまいましたが、ノミネート数が少なかった効果なのか、質疑もゆっくりできて、発表だけでは分かりにくかった部分も質疑のやりとりで理解することができました。

平成28年も開催します。早くも5ヶ月過ぎようとしていますが、発表会は3月頃行う予定ですので今からでもまだ間に合います。平成28年職員表彰発表会ではたくさんの応募をお待ちしています。今から準備をお願いします。

なお、各賞の受賞者は下記のとおりです。

研修参加推進ポイント

| | 医 局 部 門 | コメディカル | 看 護 部 門 | 事 務 部 門 |
|----|---------|--------|---------|---------|
| 1位 | 的野る美 | 大久保博史 | 筒井和美 | 頼藤博士 |
| 2位 | 杉田論 | 竹下和美 | 安藤万寿美 | 堀川利美 |
| 3位 | 永田茂行 | 佐藤香 | 吉田幸子 | 立石直樹 |
| 3位 | | 花村怜美 | | 橋本裕二 |

職員表彰

| | 表 彰 対 象 | 推 薦 内 容 | 発 表 者 |
|----|--------------|-----------------------|-----------|
| 1位 | 地域医療連携室 | 在宅機関との連携強化、対支援への取り組み | 石川副看護師長 |
| 2位 | 医療安全推進部会 | ダブルチェック効果を高める実践的な取り組み | 大久保副薬剤部長 |
| 3位 | 看護部ジェネラリストQC | 病棟内の棚の活用 | 高橋看護師（5階） |

院内感染対策研修会を開催して

感染管理認定看護師
三重野 純子

第2回院内感染対策研修会を3月28日に開催しました。今回の研修会は、平成27年度に感染に関する研修会に参加した2名の看護師が、研修会で学んだことや、院内で活かして欲しいことなどを踏まえて伝達講習という形で行いました。

始めに国立病院機構九州グループ主催の「院内感染研修会」に参加した村山副師長さんが洗浄・消毒、抗菌薬についてお話ししました。「入れ菌は洗浄するけど、その容器は洗っていますか？」と身近な話題を踏まえた話しから、抗菌薬投与の注意点について伝達し

ました。続いて厚生労働省医政局主催の「院内感染講習会」に参加した廣末師長さんが環境整備、職業感染防止についてお話ししました。職業感染防止では当院のマニュアルを取り入れた内容となっており、針刺し事故時の対応などが周知できたのではないのでしょうか。

医療機関で働く全ての者が実施しなければいけないのが院内感染対策です。今後も、職員一丸となって院内感染対策を行って行きましょう!!



左：廣末手術室師長 右：村山副看護師長

別大マラソンを走って

検査科
古野 浩

2月7日、第65回別府大分毎日マラソンのスタートの日だ。

控室のおさる館では、昨年よりカテゴリー2の参加選手が多く足の踏み場に困るくらいだった。準備を済ませてウォーミングアップに出てすぐに、佐賀病院勤務時の練習仲間2人と偶然にも再会した。お互い健闘をたたえ合いスタートラインへ。

今年から新コースとなり、「大分医療センター」とプリントしたユニフォームを作り気合十分だった。院長先生の身を乗り出しての応援、副院長、事務部長、職員の方の横断幕を持つての応援に気合が入った。が練習ができてないのでヨレヨレ状態でのゴールとなった。

3時間15分46秒(1961位)だった。

来年はまだエントリーできるタイムがあるのでリベンジしたいと思っている。

みなさん、来年も応援よろしくをお願いします。





“診フロ” PV撮影

2階病棟副看護師長
高瀬 由香

大分医療センター PV 作成に関わらせていただきました。まずは、前回『恋するフォーチュンクッキー』を作成した経緯から説明します。医療現場で働くスタッフを笑顔いっぱいになりたいというボランティアグループ「パセリの会」が当院のいいところを前面に出した患者に選んでもらえる病院 PV を作成したいという想いから始まりました。

現場の人が出演することが大事であり、楽曲の楽しさと職場の雰囲気がリンクします。見えない全部署(検査科や庶務課・栄養科など)が、この楽曲効果に乗って可視化され、実際に働いているスタッフの顔が見えることで安心感に繋がると思い委託業者にも協力してもらい全部署出演が実現。楽しい職場＝働きやすい職場という認識から就職志願者数の増加。楽しい職場＝

活気があり、良いサービスを提供している病院という認識から利用する病院選択候補に挙がることを期待しています。

出演のために何度も練習し、職場のみんなで日常業務でないことを連携するというプロジェクトを展開することで連帯感が生まれる。これは、多職種がチームで患者を見る病院では必要不可欠な要素であるのではないかと思います。

今回は病院が主体となりプロジェクトチームが第2弾とし大分県(おんせん県)のPRにも使われている「シンフロ」を参考に「診フロ」を作成。2回目ともなると全部署の協力体制が整い、凝った演出もあり見ごたえ十分。すでに就職説明会で映像を流し好評頂いています。みなさんもHPからぜひ見てみてください。



被災者受け入れ訓練

災害訓練(被災者受け入れ訓練)の反省文

麻酔科部長 岩本 亜津子

麻酔科岩本です。前回赤タグポストで役立たずだった私は、今回は対策本部で院長・副院長代行をさせていただきました。そこで対策本部の訓練について気付いたことを書かせていただきます。

- ①対策本部では前回の失敗を踏まえ、専任の電話担当者を4人確保し、また板書もDMATで行われる患者情報記録とクロノロ(時系列記録)を書いてもらうことにしました。最初は不慣れな記録で戸惑いもありましたが、最後には、クロノロに解決・未解決の項目を付け加え、記録がさらに進化しました。(拍手！)
- ②現場からの情報で患者番号とトリアージタグ番号の混乱が生じてしまった。
- ③設営班は設営が終わると各ポストのロジになってもらったため不足物品の依頼が来た時持つて行く人員がいなくなりました。

全体として、役割分担など事前の説明が不十分だったため混乱が生じたように感じます。次回開催時には、訓練直前の説明を1～2時間ほどにすることを提案いたします。

院内被災者受け入れ防災訓練に参加して

1階病棟看護師長 森崎 久美

平成27年3月11日に訓練を開始してから、今回で3回目の災害防災訓練になります。あの東日本大震災を教訓に、どんな時も慌てずに被災者を受け入れる為に訓練がおこなわれました。

さて、私自身はじめてこのような訓練に参加しました。訓練では、患者さんは一次トリアージに絶え間なくやってきましたが、効率よく各ポストに患者を搬送できず、一次ポスト内に患者さんがプールされるばかりでした。ポストリーダーの私もロジの方も右往左往し、全く余裕がありませんでした。本当に震災が起こったらどれほどの混乱になるか予想もつきません。しかし今回の訓練で色々な改善点が見つかり、次の訓練に生かせると思いました。またどんなに効率よく動いても、マンパワーが多いことが大きな力になると感じました。

今回の反省を踏まえ、次回の訓練では、冷静な判断ができるように、各グループでの打ち合わせを確実にこなうとともに、START法を熟知してから訓練に臨みたいと思います。

合同送別会

庶務係

釘宮 美由紀

平成 27 年度合同送別会が平成 28 年 3 月 16 日（水）にトキハ会館で開催されました。定年退職者 2 名を含め退職者・異動者 17 名、その他職員 107 名の参加がありました。まず、院長の挨拶から始まり、次に定年退職者の野田師長から国立病院機構での思い出話などに笑いを交え挨拶頂きました。退職者・異動者の方々に大分医療センターでのエピソードや今後についての抱負など皆さんの思いを語って頂きました。副院長の乾杯を皮切りにお酒を交え各テーブルが賑わって、あ

っという間に誰がどのテーブルかも分からない様にあっちこっちへの大移動でお世話になった方達との挨拶が続きました。

和やかな時間はあっという間に過ぎ、送別会も終わりに近づき奈須先生の締め言葉に続き、職員全員でアーチを作って見送りました。やはり、ここでも話は尽きず長い列となっていました。最後の一人まで見送り、無事に送別会は終了しました。また一つ大分医療センターでの思い出が増えました。



大分医療センターのロゴマークについて

全体のコンセプト



Oita National Hospital (旧国立大分病院)の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。

これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

- 「緑と赤」…昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
- 「青」……大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
- 「黒」……地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。

編集後記

熊本地震の被災者の方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

また、一日も早く復旧を果たされることをお祈りすると同時に、被災された皆様が平穏な日々を取り戻せるようお祈り申し上げます。

当院においては大分市の東に位置しており、地震当日に大きな揺れはあったものの、病院の建物・職員に直接的な被害を受けることはありませんでした。しかしながら、今まで経験したことのない大きな地震と、それに伴うテレビ、携帯、スマホ、インターネット、メール等々による様々な情報の渦の中、果たして冷静な判断ができていたのかと考えさせられました。昨年度から地震・津波を想定した防災訓練など実施してはいるものの、マニュアルどおり行動ができたのか、マニュアル自体に不備はなかったのか、いろいろな反省点が浮き彫りになりました。やはり阪神淡路大震災や東日本大震災を見て、知っていながら、どこか時間とともに危機感が薄れてきていたところがあったのかもしれない。まだまだ余震が続いている中ではありますが、今回の経験を無駄にすることなく、職員一丸となって早い段階から次回の防災訓練への取り組みを充実していきたいと考えています。編集委員一同

編集委員

委員長

穴井 秀明 (副院長)

委員

- 姉川 俊也 (事務部長)
- 中村 雄介 (臨床研究部長)
- 竹之内須賀子 (副看護部長)
- 山本真由美 (教育担当師長)
- 高瀬 由香 (2階病棟副看護師長)
- 三宅 修二 (管理課長)
- 田辺 俊介 (経営企画室長)
- 内田 信也 (業務班長)
- 生野 充章 (専門職)
- 米丸 淳一 (給与係長)
- 岡江 晃児 (医療社会事業専門職)